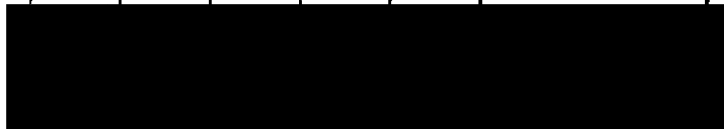


議 長	事務局長	課 長	課長補佐	係 長	係
-----	------	-----	------	-----	---



様式第4号(第5条関係)

令和7年4月2日

菊池市議会議長

様

議員名

木下雄二

令和6年度政務活動費収支報告書

菊池市議会政務活動費の交付に関する条例第6条の規定により、次のとおり政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 240,000 円

2 支出

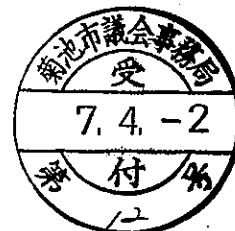
(単位 円)

項 目	金 額	備 考
会議研修費		
調査研究費		
資料作成費		
資料購入費		
広報費	265,720	議会通信印刷代
広聴費		
人件費		
事務所費		
要請・陳情活動費		
合計	265,720	

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

3 残額

0 円(支出が収入を上回る場合は0を記入)



衣報費 265,720円

領 収 証

木下雄二

様

No.

★

4
7

265,720-

内 訳

現金 ✓

小切手 /

手 形 /

消費税額等(10%) 24,156

コクヨ ウケ-98

但市議会通信印刷代として

令和7年3月28日 上記正に領収いたしました

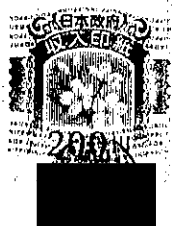
登録番号T5810399699949

メニュー屋さん鹿本店

〒861-0304 熊本県山鹿市鹿本町御宇田722-

TEL0968-42-3075 FAX0968-42-3076

代表 松 茂 文 代



御 見 積 書

木下 雄二 様

2025年3月21日

メニュー屋さん鹿本店
〒861-0331 山鹿市鹿本町御宇田722-1
TEL.0968-42-3075
FAX.0968-42-3076

下記の通りお見積もり申し上げます

品 名	仕 様	数 量	金 額
市議会通信	サイズ:297×628ミリ 用紙:コート90k カラー両面印刷代 ※三ッ折加工代含む	5,500枚	¥ 225,720-(税込)
	製作代 写真30点・加工代	一 式	¥ 40,000-(税込)
	合 計		¥ 265,720-(税込)

いつもお世話になります
ご検討を宜しくお願い致します

未来の菊池をみなさんと



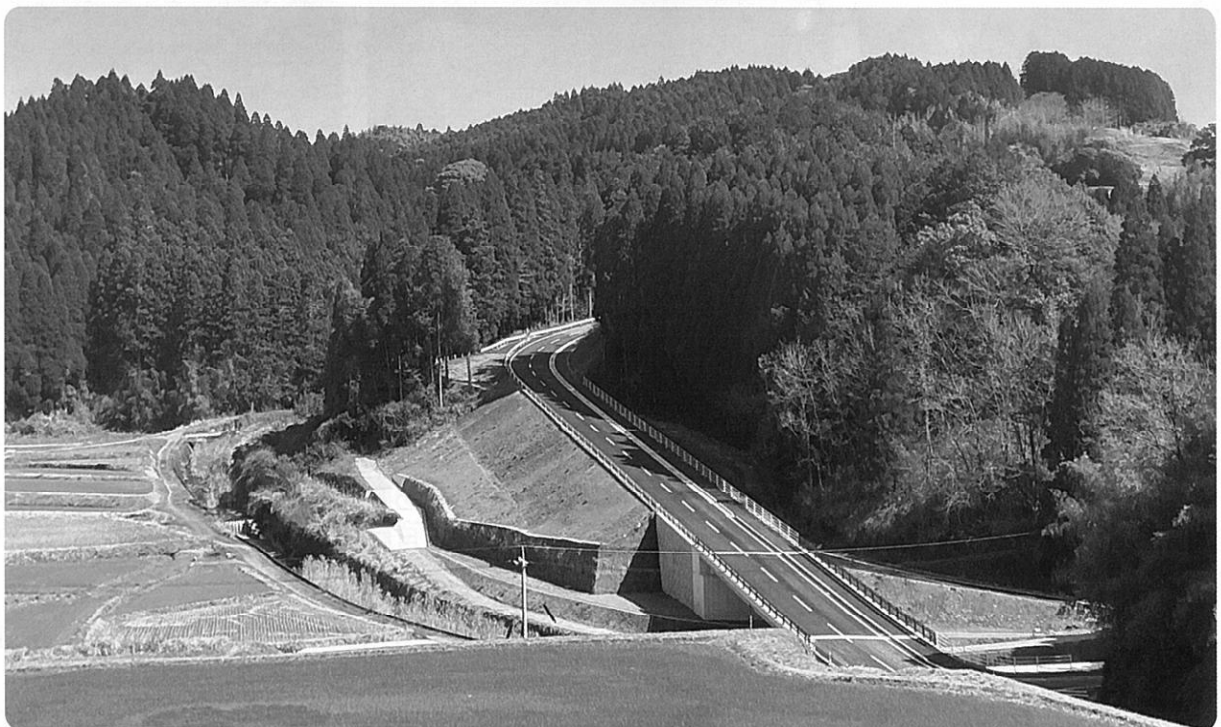
木下雄二

菊池市議会報告

(令和六年度 市議会定例会)

ごあいさつ

私、木下雄二は市議会議員として28年間、現場第一主義で活動をして参りました。特に2期から一回も欠かさず一般質問をさせていただきました。市民の声を議会で発言することを公約として、今後も住民一人ひとりが「幸せ感」を持てる地域づくりを目指して参ります。ここに私が本会議で行った質問事項を要約し報告させていただき、さらに初心を忘れず努力して参ります。どうぞ、この熱意をご理解いただき、ご支援を賜りますようよろしくお願い致します。



令和7年3月に全線開通した古川伊倉線(迫間地区) ▲

菊池市議会

木下雄二

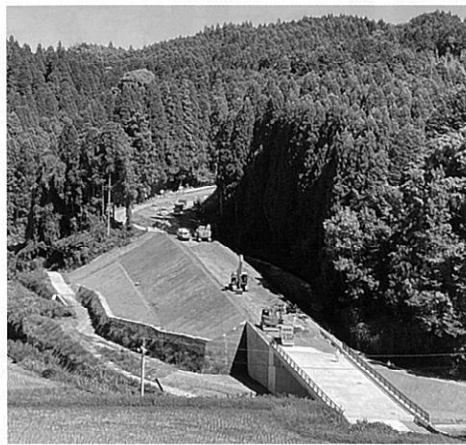
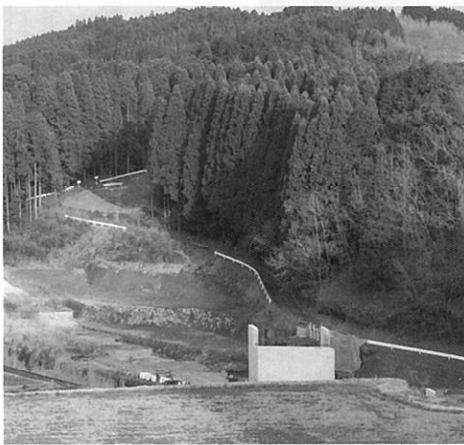
一般質問集

木下 平成30年6月に進出した、株式会社山口油屋福太郎、日本食品株式会社の立地企業による、旧迫水小学校跡地の熊本菊池エミュー観光牧場に併設のレストランの地元雇用、地元食材の活用、災害時の避難所として開放による地域貢献、又、近年全国で確認されているエミューの高病原性鳥インフルエンザの防疫対策と地域住民への対応は。

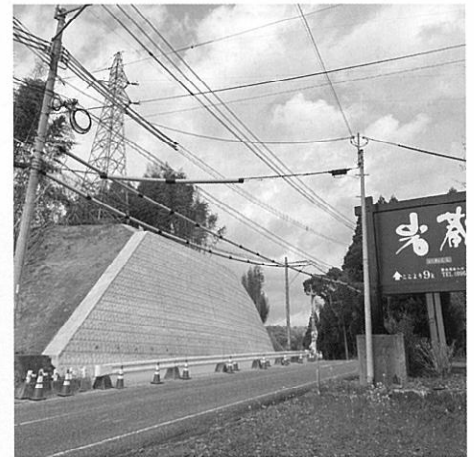
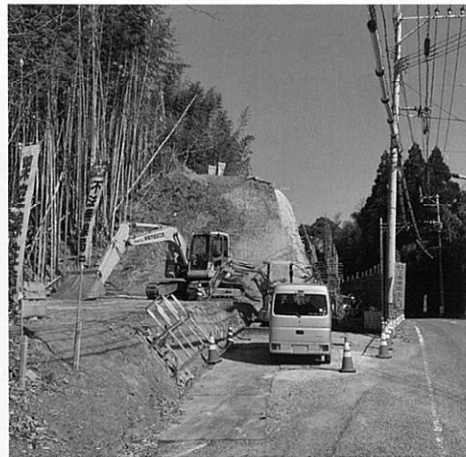
答弁 地域貢献は、進出理念であり当初の予定どおり変わらない防疫対策は、関係法令に基づき対策を行っているとのことである。



▲ 進出時のレストランでの地元雇用、地元食材使用、避難所としての開放について実現できていないエミュー観光牧場。



▲ 古川伊倉線については、国道387号線の交通渋滞、災害時の迂回路、又、産さん滝、千畳河原への観光ルートとして、要望を続けてまいりましたが、おかげさまで、黒仁田区から伊倉区までの1,6kmの事業が平成16年度から、着手して、令和7年3月に全線開通致しました。



▲ 国道387号線の豊間地区については、これまで地元県議と共に、県北広域本部への要望を続けてまいりましたが、令和3年10月の地元説明会では、曲線部の是正を目的とした改良でしたので、私としては、急カーブの是正はもちろんです、歩道の設置を含む改良が必要不可欠でありますので改めて、県北広域本部に要望を致しました。県としても歩道の必要性を認識されて令和4年12月に改めて歩道を含めた見直しの説明会が行われ、現在工事が着手しております。

木下 これまで、平成29年第3回定例会予算決算常任委員長報告等で、提言、指摘、要望があった市外職員の通勤手当、住居手当、ふるさと納税寄附の状況は。

答弁 市外に住む職員数（R6年4月現在）458人中（150人）通勤手当は139人で約1,569万円。住居手当は38人で987万円。ふるさと納税は36件で令和5年度の寄付は59万2,000円である。

木下 竜門ダム of 工業用水の未利用水の活用のTSMC、ソニー等半導体関連企業、関係自治体への水源涵養林等の菊池市の活性化につながる交渉の現状は。

答弁 菊池台地用水土地改良区として承認しているものの、水の権利は県が保有しているため、市は関与できるものではないと考えている。

木下 菊池市公共施設等総合管理計画の迫間支館及び重味グラウンドを避難所、ドクターヘリ離着陸場として存続を求める迫間、水迫地区区長会の要望への対応は。

答弁 迫間支館については要望書の内容も踏まえ合意形成に向けて丁寧に進めていきたい。重味グラウンドは、ドクターヘリの離着陸場として利用することで了承いただいている。
(水源、龍門、花房、戸崎各支館も地域移管、廃止の計画)

木下 国道387号沿いの迫間地区における迫尾型太陽光発電事業は、当初市の環境基本条例違反からの開発に現在も地域住民の不安の解消に至っていないが市の対応は。

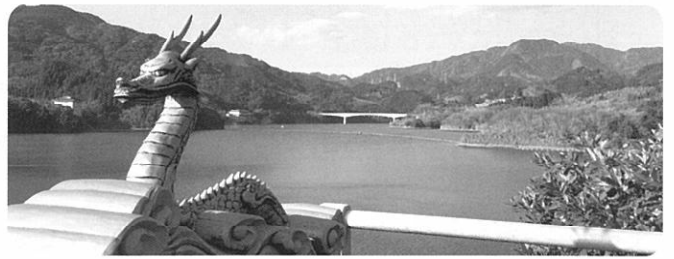
答弁 現地確認の結果等を踏まえた開発事業者による対応内容等、情報提供を依頼している。併せて、九州経済産業局に対し情報共有等を行い、必要に応じ国のガイドラインへの適合の有無等の確認を行っていく。

木下 九州産廃菊池事業所廃止後の地元水迫地区から提出された環境整備基金活用についての要望は、これまで長い間、産廃問題でご苦労をかけた地域に早急に対応する必要があるが現在の状況は。

答弁 今回上程の補正予算以外の残りの事業は、令和7年度当初予算に上程できるよう必要な対応を行っている。

木下 平成30年10月から、小川基金を活用した給付型奨学金教育振興小川基金の申請が始まりこれまで経済的理由で進学が難しい子供達の夢が叶う事となり、将来的には菊池市の発展に結びつくと思われませんが、現在の申請状況は。

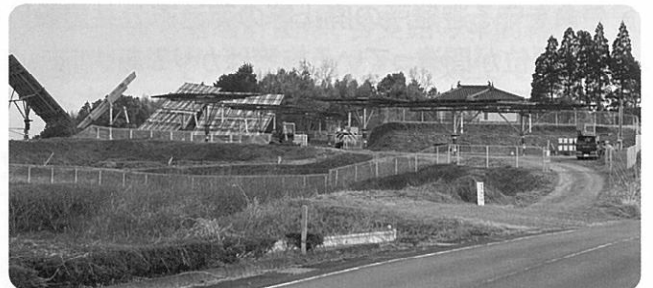
答弁 平成30年度から令和5年度までの6年間で、49名に対して、入学一時金として1,610万円を給付奨学金として4,353万3,334円を給付、総額5,963万3,334円を給付しております。令和5年度末時点での小川基金残高は9億7,127万4,663円となっております。令和6年度においては、高校進学者1名、大学進学者7名、計8名の申請があったが選考によって、最終的に6名を奨学金内定者として決定。



▲令和元年11月に龍門地区区長会による竜門ダム交付金の一部を「龍門ふるさと振興基金」設立の要望が提出されたが現在も設立に至っていない。その時に設立していれば、今回のTSMC等、竜門ダム未利用水への対応ができたと思われる。



▲重味グラウンドは、ドクターヘリの離着陸場として存続が決定



▲迫間支館(避難場所)横に新設されている迫尾型太陽光発電



▲環境整備基金活用による洗濯機・乾燥機が整備された水迫里山の家



◀ 小川基金記念碑

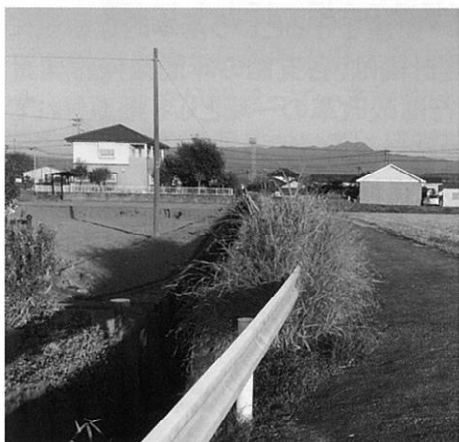
木下 国際交流は特に締結については歴史的
背景等の根拠が必要だが、今回の唐突に行われ
た台湾台南市東区との交流締結の経緯と経費は。
答弁 台南市議会議員と民間の方との交流がき
っかけで、台南市議会が菊池市との交流を推進すること
となり、台南市東区から友好交流の依頼があった。
その後、WEB 会議、菊池市への訪問による意見交換
などを経て、友好交流協定を締結することとなった。
締結に関する経費は、公費負担分 10 名分の旅費及び
記念品代等総額として、約 228 万円である。



▲歴史的背景等による台湾宜蘭市との交流締結



▲ 龍門地区雪野区の竜門ダム流域対策協議会等要望による、国土強靱化対策工事で溜まった土砂を撤去 (1700立米、870m) する事ができました。



▲ 菊池地区、深川区の用水路の除草作業の要望をいただきましたので、市と協議を重ね、土地改良区の
多面的機能支払交付金制度で防草シート施工によって解決する事ができました。



▲ 竜門ダムの観光ルートとしても重要な鯛王菊池線の斑蛇口湖のレガッタ大会用ボート運搬等、又通学路
として支障がありましたので、地元東迫間区長と県北広域本部への要望によって、伐採する事ができました。

迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情書

令和6年第2回定例会での木下雄二賛成討論議事録

木下 陳情第2号、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情書に、賛成の立場で討論をさせていただきます。

この件につきましては、令和2年7月に施設マネジメント課より管理計画が示されましたので、私は地元に住む者として、これまで、見直しを含め指摘、要望を続けてまいりました。

市は、現状の個別施設計画は、施設本来の用途を基準に将来の方向性を示したもので、避難所などの別用途として利用する公共施設の個別施設計画を推進する場合は、庁内関係各課、また関係機関と連携を図りながら、利用者などの意向を踏まえ、丁寧な説明を行いながら、合意形成を図っていききたいと答えておられます。その後、令和3年7月の総務文教常任委員会所管事務調査委員長報告では、本市の指定避難所等の総数は52か所であり、平常時の収容人員は9,280名であります。コロナ禍における避難所運営の視点に立った場合、車中泊スペースを含め、避難所、避難場所の確保に十分留意し、慎重に行うことが重要であると指摘がありました。

菊池市は熊本地震による甚大な被害を受けましたが、特に迫間、水迫地区は被害が大きかった地域であり、現在は民間に売却して使用できなくなっている旧迫水小学校跡地に市が指定した避難所が開設されましたので、多くの地域住民の方々が何日間も避難をされました。地震発生時は4月で寒い中、体育館は暖房もなく、床は硬くて冷たい状況でしたので、高齢者、また小さい子どもたちはつらい環境でした。私にも、隙間風が入らないようにしてほしい、床に敷くものが何か欲しい、炊き出しの対応もできていませんでしたので、おにぎりを菊池小学校まで取りに行かなければなりませんでした。そのほか、様々な要望がありましたが、十分な対応はできませんでした。

先ほど平議員の反対討論で、熊本地震のときには避難所として開設がなかったから、今後もし必要ないような意見でしたが、熊本地震のときには、先ほど申し上げたとおり、市が職員を配置して開設したのは旧迫水小学校跡地でしたので、より多くの方が収容できる体育館に集約されたと考えられます。しかし、避難所として開設されていませんでしたが、今回要望の迫間支館、重味グラウンドには車中泊のための避難場所として、多くの地域の住民が利用されておりました。

令和5年11月9日に開催された迫間区長会の説明会でも、その当時の地区長様より代表して、地域は全会一致で現状維持で管理をはっきりと要望されております。

市長も本年の年頭の挨拶で、能登半島地震を踏まえ、まず防災、市民の生命・財産を守るという基本的な命題に立ち返ってほしいと市職員に訓示されています。市の今回の公共施設等管理計画は、各支館の年間維持管理費約100万円、重味グラウンドの維持管理費約60万円の経費削減が目的で、行財政改革の一環として推進されておりますが、現在の菊池市は完全に優先順位が間違っていると思います。

菊池市は特に中山間地域を切り捨てる政策が続いており、これまでに毎月の水道検針を2か月に1回に改正することも決めております。菊池市民の雇用、地域住民の安否確認、見守りを兼ねた検針ができなくなります。

地域移管は、迫間支館の場合、1世帯当たり年間2,400円の負担が必要となり、その後は施設改修や解体撤去費用には全て地域負担となりますと説明していますが、迫間、水迫地区は高齢化が進んでおり、各地区の区費の値上げもできない現状ですので、到底受け入れることはできません。

行政は、市民の命、安全を守ることが最優先でなければならないと考えており、私は一貫して、これまで市民の痛みの前に、議会としては定数削減による身を切る改革、市は、菊池千年さくらプロジェクト、足湯、ラブベンチ、各種イベント等、政策の見直し、平成29年予算決算常任委員長報告での提言による市職員の市外勤務の令和4年度147名の通勤手当約1,601万円、住居手当約990万円の経費削減を図る必要があると考えます。

議員の皆さんも、自分自身が住んでいる地域の避難所、避難場所が廃止になることを望む人はいないと思います。いつ地震、豪雨等が発生するかもしれない状況で、廃止はあり得ません。

今回の陳情は、その地域で生活をしておられる方々の代表である区長会の切実な願いであり、重く受け止めなければなりません。改めて、市民の生命を守るために、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情にご賛同をよろしくお願いいたします。

陳情 第 2 号		迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情書																不採択				
議 案	議席番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	結 果	表 決 数	本藤 潔	安武 睦夫	稲継 智康	古田 浩敏	島 春代	大山 宝治	田中 教之	福島 英徳	緒方 哲郎	後藤 英夫	平 直樹	東 奈津子	水上 隆光	猿渡 美智子	荒木 崇之	工藤 圭一郎	二ノ文 伸元	泉田 栄一朗	木下 雄二	山瀬 義也
陳情 第 2 号	不採択	7 対 11	○	棄	●	●	●	○	●	○	●	●	●	○	/	●	○	●	○	●	○	●

賛否表

○は賛成 ●は反対 棄は棄権 除は除斥 ／は議長職時

一般会計歳入歳出決算の認定について、反対の立場で討論

令和5年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について、反対討論議事録

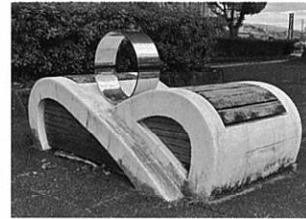
木下 議案第69号、令和5年度菊池市一般会計歳入歳出決算の認定について、反対の立場で討論をさせていただきます。

まず、桜の里プロジェクト事業についてですが、平成25年度からスタートしておりますが、これまでに約1,000本以上植樹され、事業費も約4,000万円を超えております。1本当たり約4万円の費用がかかっております。私はコロナ禍のときには、今後の維持管理費、費用対効果を考えた場合、特に植樹した地域等の管理をする覚書がほとんどできていない状況もあり、将来的には市が管理することへの心配に、これまで一般質問等で事業の中止を求めているのですが、現在も継続されております。



▲ 桜の里プロジェクト(国道387号)

次に、ラブベンチの事業ですが、この事業も平成26年度からスタートしておりますが、費用対効果の面からも、市民には大変評判が悪く私も当初から反対しておりますが、継続されていることに理解ができません。(制作経費1基約150万円) また、デザインについても、菊池一族の旗印に座るようなデザインに不満の声も届いております。選考にも問題があると思われます。



▲ ラブベンチ



▲ 菊池一族の旗印
ラブベンチ

次に、ポケットパーク足湯の事業ですが、この事業は平成24年度からスタートしておりますが、私は予算化のときから反対しております。この事業も市民の評判も悪く、利用者もほとんどおられないのに、清掃費等は毎年約200万円の維持管理がかかっていますので、早急に見直しを図る必要があります。現在の菊池市は、先ほど荒木議員、福島議員から反対討論がありましたように、税金の無駄遣いが多いと感じております。市民の命を守る避難所の廃止等の菊池市公共施設等管理計画を含め、優先順位が間違っている施策ばかりであります。このような観点から、議案第69号については反対をいたします。



▲ ポケットパーク足湯

議員定数削減案を否決

令和7年3月19日菊池市議会第1回定例会において定数20名を18名とする改正案が賛成少数で否決となった。私はこれまで、議員定数削減については、一貫して4名削減を提案してきましたが、今回は、譲歩して2名削減に賛成討論まで行って、市民への痛みの前に、議会が身を切る改革を行い、市民アンケート結果の61%削減に基づき削減すべきであると訴えましたが 賛成議員7(古田、大山、稲継、福島、荒木、二ノ文、木下 敬称略) 反対議員11(本藤、安武、島、田中、後藤、東、猿渡、工藤、緒方、泉田、山瀬 敬称略) で否決となりました。来年の市議会選挙まで、私は引き続き議員定数削減を訴えてまいります。



プロフィール

昭和32年11月27日菊池市森北生まれ
昭和54年 東京観光専門学院卒業
(現) 菊池市議会議員・7期
(現) 総務文教常任委員会委員
(元) 竜門ダム流域対策協議会会長
(元) 菊池環境保全組合議会議長
(元) 企業誘致促進特別委員会委員長
(元) 菊池養生園保健組合議会議長
(元) 菊池市立北小学校PTA 会長
青少年育成アドバイザー
ホームヘルパー2級



木下雄二 〒861-1684 菊池市豊間1388-3 電話・FAX(0968)24-1163